

日本近代化の先駆けだった長崎。

ここから近代化の技術は広がった 海軍伝習所

欧米列強からの侵略を防ぐため、江戸幕府はオランダの支援を受け、1855(安政2)年に長崎海軍伝習所を設立します。ここでは軍艦の操作だけでなく、物理や天文、蘭学なども教えました。幕府や藩の命を受けた若者たちは、新しい技術を習得するために全国各地から、長崎を目指しました。

長崎港は「造船日本」の大舞台へ

開国に伴う大型船舶の増加とともに、船の建造や補修の技術が必要になってきました。長崎の港には、江戸幕府によって長崎製作所がつくられ、またグラバーらによって小菅修船場(ソロバンドック)がつくられました。こうして長崎の造船の歴史は幕を開けます。これらの施設は明治政府のもとで官営になりますが、その後、三菱が払い下げを受けて造船事業は大きく成長し、世界でも有数の造船の街が誕生することになったのです。

産業遺産の宝庫、長崎

長崎の造船業とともに、長崎の街も急速に発展しました。この長崎の街には、造船業以外にも、日本の近代化に重要な役割を果たした産業遺産が今なお数多く残っていて、その飛躍的な発展の歴史を今に伝えています。特に、幕末から明治期にかけての日本の重工業の急速な産業化を物語る「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、2015年に世界文化遺産に登録されました。

明治日本の産業革命遺産—製鉄・製鋼、造船、石炭産業—



●小菅修船場跡

グラバーらが手がけた日本最初期の洋式の修船場。船を曳き揚げるための船架台がソロバン状に見えたため、通称ソロバンドックと呼ばれています



●三菱長崎造船所 第三船渠(ドック)

1905年(明治38)年に建設され、多くの船舶の修理が行われました。三度の拡張を行っているものの当時の姿をとどめる貴重な資産となっています(非公開)



●三菱長崎造船所 ジャイアント・カンチレバークレーン

工場設備電化に伴い同型として日本に初めて建設された英国製の電動クレーン。吊上能力は150トンで、1909(明治42)年の据付から100年以上が経過した今もお現役稼働中(非公開)

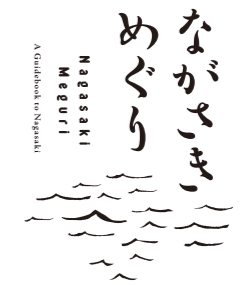


●長崎造船所 旧木型場

鋳物用木型の製作所として建てられた煉瓦造りの建物。現在は、三菱史料館として使われていて、収蔵品には日本最古の工作機械「竖削盤」などがあります

The History of Nagasaki ④

Modernization



●三菱長崎造船所 占勝閣

長崎造船所の迎賓館として使用されている本造二階建洋館。軍艦「千代田」艦長の東伏見宮依仁親王が宿泊した際に「風光景勝を占める」という意味で占勝閣と命名(非公開)



●高島炭坑

グラバーらが開発した高島の北溪井坑。日本で最初に近代的な採炭法を取り入れた炭坑で、日本の炭鉱の近代化の先駆けとなりました



●端島炭坑(軍艦島)

炭鉱の島として開発され、1890(明治23)年から三菱の所有となり本格的な採炭を開始。採炭事業の発展に伴い島は拡張、最盛期には5千人以上が住んでいました



●旧グラバー住宅

石炭や造船など、当時の日本の主要産業の近代化に貢献した商人トーマス・グラバーの活動拠点。1863年(文久3)年に建てられた日本最古の木造洋風建築

石炭産業の近代化を担った端島(通称「軍艦島」)